

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970800809		
法人名	医療法人 正寿会		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	山梨県中央市乙黒247-1		
自己評価作成日	平成23年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年12月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所は田園地帯が広がる静かな環境の中に建設されており、四季それぞれの風景が目を楽しませてくれる。反面周りに人家が少ないうえに、介護老人保健施設に併設されているため、近隣との関係は希薄になってしまう傾向がある。2ヶ月に1回開催される運営推進会議には自治会長や民生委員の方に参加していただき、地域の皆さんにできるだけ事業所の存在を知ってもらうように心がけている。そのため、最近では地域のお祭りや敬老会などの時にはご招待いただき、地域の皆さんと一緒に楽しませていただいている。この絆を大切に、地域住民の方に気軽に立ち寄りいただけるような事業所になれるようにしていきたいと思います。また、利用者が家庭と同じような、ゆったりとした気持ちで日常生活が送れるように、職員は日々努力している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は介護老人保健施設と併設されており、田園地帯が広がる静かな場に位置している。事業所の正面は施設のロータリーで施設利用者や車の出入りが多い。入り口の脇に畑があって大根やネギが伏せてあり日常の食材としている。ホールには利用者と職員が手づくりしたフラワーや季節間を感じる貼り絵等数多くあり、専門の人が作ったと感じる力作が飾られている。利用者にあった仕事や遊びを工夫して日々の生活の中で職員が見守りながら行っている。運営推進会議は利用者も参加して行なうなど、サービス向上に活かしている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームだんらん

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念「やすらぎ」と、事業所独自の基本方針を掲示してある。利用者の人格の尊重・健康管理・地域との交流などを基本方針とし、それに基づいた実践を行っている。	利用者の人格を尊重し、家庭的な雰囲気の中でケアするように心がけている。カンファレンス時、理念の確認や対応方法を検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会長を中心として、地域のお祭りや自治会の敬老会などの行事にも参加させていただいている。また、事業所の行事には、地域の方がボランティアで参加してくれたりして交流している。	事業所は地区の住宅地と離れており、近隣は民間会社が多く地域の連携が難しい場所である。事業所があることを知られていないので、運営推進会議を通じて地域の住民に知ってもらうようにしている。地区の秋祭り(夜の祭り)や敬老会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させていただく中で、自然に認知症について理解していただけるように努めている。また、グループホームが認知症の人を対象としていることを地域の方たちに知ってもらうことで、何か認知症について困ったことがあった時に、相談してもらえるように努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や評価への取り組み状況等について報告し、市役所職員・自治会長・民生委員や家族と話し合い、出された意見をサービスの向上に生かしている。また、利用者も可能な限り出席することで、普段の様子を皆さんに見ていただくようにしている。	運営推進会議には家族全員に連絡して参加を依頼しており、毎回4～5名の参加がある。利用者も参加して1人1人の状況報告や、日々の生活情報を提供している。施設からはインフルエンザ、ノロウイルスのなど集団感染の恐れがあるので十分注意するよう要請がある。利用者の歌の披露やキーボードの演奏、皆での手作りおやつ等参加者全員で楽しんでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターと連絡を密にし、事業所の実情を伝えながら、協力体制を整えている。	運営推進会議の報告や空室が生じたときの相談、身寄りのない利用者の今後の生活など担当者と相談しながら進めている。様々な難しい問題を抱えている利用者は包括支援センターも交えて相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」については法人全体で取り組んでおり、職員も身体拘束の弊害については理解している。玄関の施錠に関しては、玄関前が駐車場になっており、車の出入りも多いため現在でも鍵をかけている時もある。職員のスピーチロックについては常に意識して気を付けている。	「身体拘束をしない」ケアに取り組んでいる。マニュアル作成しスピーチロックの研修をしている。利用者コミュニケーションが上手くいかない時は職員間で変わって対応する等の工夫をしている。玄関は老健のロータリーに直結しており危険防止のため施錠をやむなく行っている。	玄関を出ると老健のロータリーに直結しているため車の出入りが多い時間帯は施錠をやむを得ず行っているが、職員の人数が揃った時間帯で、玄関に鍵をかけずに安全で過ごせる工夫を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について職員カンファレンスの際に話し合い、どんな行為が虐待に当たるか知ること、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、その必要性を学ぶ機会を持ち、制度としてどのような支援が行えるかを理解し、活用できるようにしたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入居前に管理者が家族に対して個別に行い、事業所の利用料金や利用上の注意点などを納得していただいたうえで契約していただいている。また、解約や改定の場合は、その都度納得のいくように説明を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は、言葉で伝えられない方が多いため、日常生活の中で推測して、運営に活かせるようにしている。また、家族の要望に関しては、面会時に親しく話をしたり、運営推進会議等の機会に出せるような雰囲気づくりに努めている。	運営推進会議に利用者・家族が参加しているので意見を出せるような雰囲気づくりに努めているが、運営に関する要望は出していない。個々の要望は家族の面会時に聞き取り対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は職員のカンファレンスの機会を持ち、職員の意見や提案を聞く機会を持っている。また、そこで出された意見や提案は、できるだけ事業所の運営に反映させるようにしている。	毎月1回は全職員の参加でカンファレンスの会議を開催している。利用者の状況、業務の提案、事業所の運営についての検討を行い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や個々の職員の勤務状況や仕事を評価し、それを給与に反映することで、各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、法人全体の研修会や、山梨県グループホーム協会の研修等を受講する機会を確保している。さらに、一人ひとりのケアの実際と力量を把握するとともに働きながらトレーニングを行い、スキルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に加入しており、研修会や総会の際には他施設の状況等を情報収集している。ただ、1年に3回ほどしか集まる機会がないため、なかなかサービスの質の向上に繋げるまでには至っていない。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、本人・家族との面接や、自宅への訪問を通して、不安なことや困っていること、要望等に耳を傾けながら、スムーズに事業所への移行ができるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階で、家族が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心できる関係を作れるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居を希望されて当事業所へ相談に来られるが、じっくりと話を聞くことでグループホームへの入居が適当かどうかを見極め、居宅支援事業所の介護支援専門員とも情報交換を行いながら、「その時」必要な支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、季節の行事や毎日の家事を一緒にしながら、人生の先輩としていろいろなことを学ばせていただいている。また、職員と利用者が、暮らしを共にしているという意識を持つことにより、よい関係が築けるように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は、事業所へ入居したからと言って切れてしまうものではなく、大切にしていかなければならないものだと考えている。職員は、家族から自宅にいた時のご本人の様子を聞きながら、共に一人の方を支えているという意識を持つことが重要であると考えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞きながら、それまで暮らしていた地域の行事に参加してもらったり、近所の方の面会をお願いしたりして関係が切れないように支援している。また、できるだけ馴染みの場所で過ごせるように外出の支援も行っている。	地域の敬老会には顔見知りの住民が声を掛けてくれ、来訪もある。また、入居する前の地域の敬老会へ参加する利用者や自宅へ帰る事を希望する利用者に対応する家族もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、良好なコミュニケーションがとれるように、職員が間に入って関わり、孤立しないように気を付けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、病院への入院や他の福祉施設への入所が主であるため、入院・入所時の情報提供等は必要に応じて行っているが、その後のフォローは特に行っていない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活に関わっている介護職員が、一人ひとりの思いや希望・意向を生活の中から汲み取るようにしている。その中から、介護支援専門員はそれぞれの希望や意向を把握するようにしている。当事業所は長く利用していただいている方が多く、なかなかご自分の希望が言えなくなってきたので、本人本位で検討している。	利用者本人の思いや意向を日々の関わりの中から汲み取っている。介護支援専門員は本人の意向を職員と共有し原因、対応を検討して利用者本位のプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの相談を通して、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き取っている。また、これまでのサービス利用の経過については、家族だけでなく、居宅支援事業所の介護支援専門員から情報提供を受けながら、詳細に把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所入居後は、一人一人に担当職員を決め、馴染みの関係を作るとともに、日常生活に濃密に関わることで、心身状態や有する能力の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度はケアカンファレンスを開き、担当者と本人の様子について話し合うことと、面会時に家族の意向等を確認することで、現状に即した介護計画を作成するようにしている。また、担当者から出されたアイデアや意見は尊重し、本人がより良く暮らすために活用している。	日々職員が把握した情報やアイデアを利用者の個人表に記入して月1回のケアカンファレンスを開催している。家族の希望や意向を尊重し担当職員がモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人に個別のカルテを用意し、日々の様子やケアの実践、気づきなどを記録している。また、情報を共有するために、情報を記載したノートを用意し、職員は出勤時必ずそれを見て、新たな情報の取得とそれまでの情報のチェックを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、柔軟な支援を展開している。たとえば、受診や買い物等は、原則的に家族対応であるが、都合できない時は、事業所で行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人クラブの集まりやお祭り、地区の行事にはできるだけ参加させていただきようとしている。また、地域の小学校や中学校の福祉交流学習の際には、子供たちに施設に来てもらい、利用者と交流する機会にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族に対応をお願いしているので、それまでのかかりつけ医に行く方もいるが、家族が都合がつかない場合は、説明し納得されたうえで事業所の近医へかかりつけ医を変更したうえで、事業所でも対応することもある。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は基本は家族対応となっているが、緊急で家族の対応が出来ない場合は事業所の近医のかかりつけ医への対応をすることもある。車椅子の利用者の受診は送迎のみ支援して家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常生活を共にする中で、利用者の健康状態の変化に敏感になる。そのような情報や気づきを、併設の老健の看護師に伝えて、適切な処置方法の指示や受診の指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者に利用者の日常の様子を情報提供しながら、利用者が安心して治療を受けられるように協力している。また、退院の際には、事業所での生活にスムーズに移行できるように、退院カンファレンスを実施するなどして、病院関係者と連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	原則的には、看取りはしない方針であることを契約時に家族には伝えてはいるが、重度化した場合や終末期のあり方については、その時に直面しないとなかなか話し合う機会が持たない。その時になって、本人・家族から強い希望があった時は、できるだけ希望に沿った介護ができるように努めていきたいと思っている。	看取りはしないことを契約時に家族に説明してある。身体機能が低下した時点で介護老人保健施設など別施設へ移ることになっているが、家族の希望を出る限り受け入れて対応するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生はいつ起こるか分からないため、全ての職員に対して応急手当や初期対応の訓練を行っているが、実践力として身につけているかどうかは疑問がある。何かあった時は、老健の看護師が介護係長、管理者に連絡して指示を仰ぐように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害を予測し、避難訓練は随時行っている。法人全体で定期的に行っている避難訓練のほか、事業所独自に日常的に実施している。	消防署の協力を得て併設の施設と一緒に初期消火訓練を年1回実施。規程車体験、避難訓練を行った。また日常的に事業所だけの訓練はテーブルの下への避難、防災頭巾の着用、利用者の家族が仙台で被災した体験談を話してもらう等多くの機会をもっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を共にしていると、つい慣れてしまい、言葉遣いが粗雑になったり、心無い声掛けになってしまいがちであるということを職員全員が認識し、お互いに注意しながら介護にあたるようにしている。	慣れてくると友達、家族のような会話になってしまいがちだが、職員がお互いに注意しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表しやすいような声掛けを行ったり、自己決定ができるように、判断のしやすい質問の仕方を工夫するなどして支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、希望を聞きながら支援していきたいと思っているが、ややもすると職員の決まりや都合を優先してしまうこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服を着たいかとか、髪型はこれでいいかなど、常に本人に確認しながら希望に沿えるような支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、調理の段階から参加してもらおうと思っている。野菜の皮むきなどの下ごしらえを職員と一緒にしたり、味見をしてもらったりしている。また、食後の後片付けも、自立支援の観点から、できる方にはできるだけ自分で片づけてもらったり、食器を拭いたりすることを願っている。	高齢となり食事作りは難しいが出来ること(皮むき、豆のすじ採り、味見、台拭き、食器拭きなど)を行っている。おやつ作りは座ったままで出来るので白玉だんご、ホットケーキ等職員と楽しみながら参加しており、職員も共に食事をとっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取状況を記録することで、健康状態のチェックを行っている。水分補給にも気を付けており、好みの飲み物を提供するなどして、水分量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、一人ひとりの能力に応じて介助の仕方を工夫している。まだ、自分の歯が残っている方も多いため、できるだけ自分の歯が残るように口腔ケアを徹底している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、排泄の失敗がないように、時間でのトイレ誘導や排泄時の見守りに努めている。できるだけトイレでの排泄が継続できるような支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンや習慣を把握している。リハビリパンツを使用している利用者には声かけの支援を行っている。牛乳、ヨーグルト、運動等留意していても排便がない利用者には下剤を使用しコントロールしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの利用者が便秘で悩んでおり、下剤でコントロールしているのが現状であるが、普段の食事においては、繊維質の多い食物の摂取や乳製品の摂取量を多くするなど工夫している。また、生活の中で運動する機会を多く持って、予防できるように取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入れるような環境は整っているが、時間帯については、職員の勤務体制もあって午後2時から4時と決められている。	毎日入浴が出来るようになっており、週3~4回入浴するようにしている。1番風呂に入りたい利用者、仲良い二人で入りたい利用者等個々の希望に沿った入浴支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状況や生活習慣に従って、休息を取ってもらったり、夜間安心して眠れるように、寝具を整えたり、寝る前の習慣を継続したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬の目的や副作用についての説明書を個々のカルテに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬については、リーダーが個々に分配したものを、職員が指示通り飲んでいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりが笑顔で過ごせるように、それぞれの力を活かした役割や楽しみごとを見つけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、できるだけ外出する機会を持ってもらえるようにするとともに、本人の希望に沿って外出できるような支援を行っている。月に1回は、事業所全員でドライブに出かけたり、外出する機会を持つように心がけている。	スーパーでの食材の買い出しに職員と一緒に出掛ける。月1回は回転すし、サイゼリア等の外食、衣類の買い物、花見、紅葉が狩り、ピクニック、イチゴ狩り、サクランボ狩りや毎年甲府住吉神社に初詣に行くなど外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして個人的に使えるお金は預かっているが、職員が管理しており、本人が自分で使えるようにはなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族への電話はいつでもできるように支援している。手紙を出す機会はあまりないが、年賀状などを家族にあてて出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、できるだけ居心地が良いように配慮しており、季節感を取り入れるような飾りつけをするように工夫している。また、行事の際の写真や、日常生活場面の写真を壁に貼るなどして、生活感を持たせるように工夫している。	共用空間は手造りの物が多い。各居室の入り口の小さな窓には一人ひとりのために工夫された手づくりのネーム入りのカーテン、誕生日に送った手造りの花かご、季節感をとり入れた風景画、七福神の貼り絵、行事の写真、本棚、新聞、ラジオなど利用者が居心地よく過ごせる空間が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファが置いてあり、一人になりたいときは他の利用者から離れて座れるような配慮をしている。また、気の合った利用者同士が話ができるような居場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、できるだけ使い慣れたものを持ってきていただけるようお願いしている。家族の写真や人形なども持ってきてもらい、本人が居心地よく過ごせるような工夫もしている。	窓から富士山や田園風景が見える。居室には洗面所、トイレが設備され綺麗に磨かれている。誕生日に送られた手造りの花かごや写真、思い思いの品物が置かれて落ち着いた生活がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全な移動は確保されている。職員全員が利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を把握し、利用者の能力に応じて、安全で自立した生活が送れるように支援している。		